

中長期目標 (学校ビジョン)	安心、支え合い、学び合いのあふれる学校 ～児童生徒一人一人が自らの力を発揮しながら安心して学び、関係機関とつながり合って 幸せに生きるための舞台づくりをする学校～	今年度の 重点目標	1. 安心して学べるための環境づくりに努める。 2. 支え合い、つながりあう体制づくりに努める。 3. 豊かな生き方をめざしたキャリア教育を推進する。 4. 自己の授業を見直し、授業改善を行う。
-------------------	---	--------------	--

評価項目	評価の具体項目	年 度 当 初	目 標 (年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1. 心 して学 ぶた め の 環 境 づ く り ☆保 護 者 も 評 価 ●生 徒 も 評 価	(小学部) どの児童に対しても実態に 応じた支援や指導ができる ようにする。	担任以外の児童に対する支 援方法について共通理解が 不十分である。	・保護者が、安心して学部 の職員 に支援や指導を任せている。 ☆ ・教職員が個のねらいにそ った適 切な支援や指導を行っている。	個の実態に応じた支援方法 の わかる資料を作り、活用す る。	・学級の児童については、資 料を作成し、 支援することができているが、他学級と編制して いるグループでは十分な理解に至っていない。	D	・学習計画を立てる時に、他学級と編制している グループの資料を確認し、支援が行えるようにす る。
	(中学部) 教室が生徒にとって安心し て学び、安定して過ごせる 居場所となるような環境作 りをする。	大半の生徒は、教室で安心 して学んでいるが、見通し の持てない生徒もいる。	生徒が見通しをもちながら安心し て学び、教室を居心地のよい居場 所と感じて過ごしている。●☆	生徒が見通しのもてるような 視覚支援教材などを作成す る。	・見通しが持ちやすく、わかりやすい授業を 行うために視聴覚教材を使用した。生徒から 「授業が分かりやすい」という評価を受け た。	B	・引き続き、多様な学習支援に応じる視聴覚教材 等を作成する。
	(高等部) 一人一人の特性や実態を共 通理解しながら、生徒が安 心して学べるような支援や 環境づくりに努める。	生徒一人一人の特性や実 態、必要な支援について、 教員間の共通理解が不十分 である。	・教職員は、生徒一人一人の障 がいや病気の状態・特性等を理解 し、安心して学べるように支援や 環境づくりをしている。 ・生徒は、適切な配慮や支援・環 境のもとに、安心して学んでい	生徒の認知・理解の特性や障 がいに基づく有効な支援事例 を教職員間で共有する。	・グループ内での情報の共有は進んだが、学 部全体で情報を共有する場として、学部 のフォルダを有効に活用できていない。	C	・「共通理解のためのフォルダ」の構成を変 えて、見やすく、書きやすいものにし、最低週に1 度は生徒の情報を書き入れて共有する。
2. 支 えあ うの 体 制 づ く り	(小学部) 療育園等の専門機関と連携 し、支援をつなげ、よりよ い支援ができるようにす	児童の療育相談の指導助言 を教育の実践に十分活用し きれていない。	P T, S T, O T から受けた指導 を実践に活かし、個に対する適切 な支援ができている。	目的意識を持ってPT、OT、ST の指導を受ける。	・P T、O T、S T から受けた指導を児童の 支援に活かしているが、授業づくりに療育園 の専門性を活用する必要がある。	D	・療育園等専門機関に、ケース会議に参加しても らったり、授業づくりに係ってもらったりする。
	(中学部) 医療等の関係機関と連携 し、職員間で共通理解をし て支援を行う。	様々な関係機関からの情報 や指導が職員間で十分に共 通理解できていない面があ る。	学部の教職員は、他機関からの情 報も参考にしながら一人一人に 応じた適切な支援を行っている。	共通理解を図るため、関係機 関から得た指導を学部会や朝 会で職員に伝える。	・共有した情報は支援に活かしているが、全 員に共有されていない場合もある。	C	・情報を共有するための組織的な取組みを工夫す る。
	(高等部) 様々な外部専門家とつな がっているが、その指導を 十分に活かしているとはい えない。	様々な外部専門家とつな がっているが、その指導を 十分に活かしているとはい えない。	外部専門家と連携し、その指導を 教育活動や生徒のQ O L の向上に 活かしている。	定期的に外部専門家から得た 指導を学部全体に伝える機会 を設ける。	・外部専門家から受けた指導内容を共有でき た学習グループもあったが、全体では不十分 だった。	D	・「共通理解のためのフォルダ」を活用し、外部 からの指導の記録が見られるようにする。
3. 豊 か な 生 き が た い キ ャ リ ア 教 育 推 進	(小学部) 教職員が児童の卒業後のビ ジョンをイメージしながら 、小学部でつきたい力に ついて語れる力を身につけ	保護者・職員とも、将来の 具体的なイメージが持てて おらず、小学部段階から身 につけておくべき力や備え にしておくべきことが具体的	保護者の不安の解消やニーズを満 たす説明ができ、児童の次の学部 での姿や卒業後の姿を語ることが できる。 ☆	卒業生の情報、福祉サービ スの状況、小学部の時につけ たい力等、保護者に情報提供を 行う。	・学級の保護者へ問われたことについて の情報は提供できたが、卒業後のビ ジョンをイメージした情報は提供に 至っていない。	D	・卒業後に係る福祉施設や関係機関を訪問し たり、情報を集めたりする。
	(中学部) 進路情報の収集や研修に努 め、生徒の卒業後の生活を 保護者と一緒に考える。	保護者、職員ともに進路に ついての具体的な情報につ いて不十分な面が見られ る。	保護者、職員ともに進路につ いての具体的な情報を知り、生徒 のニーズに応じた進路を一緒に考 える。	個に応じた具体的な進路情報 を得るための研修を行う。	・中学部独自に進路に関する夏季研 修を行ったが、研修等で得た情 報を保護者等に伝える工夫が不 十分だった。	D	・研修の持ち方や教職員間の伝達方法を工夫す る。
	(高等部) 卒業後の生活に役立つ学習 や体験活動を取り入れる。	学習や体験活動が生徒の卒 業後の生活を見通したもの としては不十分である。	卒業後の生活を見通した学習や 体験活動を計画実施している。	教育課程上の位置づけやねら いを明確にし、卒業後の生活 を考えた学習や体験活動を設 定する。	・校外学習や宿泊学習の教育課程 での位置づけやねらいを明確に することができたが、3年間の積 み上げを意識して計画的に実施 するには至っていない。	C	・3年間の見通しを意識して、体験的学習のね らいや計画を十分に話し合う。
	卒業後に必要なコミュニ ケーション力や自己表現力 の育成に取り組む。	挨拶をはじめとするコミュニ ケーションや、自己表現 が苦手な生徒が多い。	生徒がすすんで挨拶したり自己 表現したりする意欲や技能が身 についている。 ●	挨拶やコミュニケーション、 マナーの指導について、一人 一人の課題を明確にして職員 全員で取り組む。	・あいさつ等は共通理解して指導 が進んだが、「場に応じた言動」ま での指導方法と話し合いは十分 できていない。	D	・個々の生徒について、コミュニ ケーション課題をより具体的に 設定して指導する。
4. 自 己 の 授 業 を 見 直 し 、 授 業 改 善	(小学部) 授業の見直しにつながる教 師間の話し合いが十分に できていない。	・教師は自分の授業を振り返 り、授業を改善している。 ・子どもたちがいきいきとし た表情で主体的に学習に取り組 んでいる。	・教師は自分の授業を振り返 り、授業を改善している。 ・子どもたちがいきいきとし た表情で主体的に学習に取り組 んでいる。	話し合いや振り返りをして授 業改善をする。	・ビデオ視聴などをして、授 業を見合う機会を工夫したが、 十分ではなかった。	C	・グループの教職員と授業改善に 向けての話し合いを行う。
	(小学部)(中学部)(高等 部) 互いに授業を見合ったり、 授業を検証したりしながら 、自分の授業を見直し、 改善を図る。	(中学部) 教師間で事前・事後の話し 合いや授業を見合う機会が 少なく、授業の改善に至 っていない。 (高等部) 互いに授業を見合って話し 合う機会がなく、支援のヒ ントをもらったり自分の実 践を検証したりする場が乏	・自分で授業を振り返ったり アドバイスを活かしたりして 授業を改善している。 ・授業が改善されることで 生徒が主体的に授業に取り組 んでいる。 ・他者からの意見やアドバイ スを活かして、自らの授業を 改善している。 ・授業が変わることで、生徒 がいきいきと課題に取り組ん でいる。	事前・事後の話し合いや授 業を見合う機会をつくる。	・授業公開したり、見合える 工夫や授業改善を行ったが、 手応えが十分に感じられない。	D	・日常的に、見たり聞いたりし たことを気軽に話し合うよう にする。 ・一つ一つの授業公開を大切 に取り組む。
				参観の視点を明確に提示し て、年間一人2回程度授業を 公開する。	・授業公開した者は、意見を 参考に授業改善している。ま だ公開していない者も多い ので、公開方法を再確認する 必要がある。	年度末 に評価	・本時のねらいや、指導者とし ての公開のねらいを確認して 公開授業を行う。 ・気軽に公開できる方法を見 直し、公開を進める。

評価基準 A:十分達成[100%] B:概ね達成[80%程度] C:変化の兆し[60%程度] D:まだ不十分[40%程度] E:目標・方策の見直し[30%以下]